



# トレースの設定

この章では、Trace Configuration ツールを使用して、Cisco CallManager サービス用にトレース パラメータを設定する手順について説明します。

この章の構成は、次のとおりです。

- [Cisco CallManager トレース パラメータの設定 \(P.5-4\)](#)
- [Cisco CDR Insert トレース パラメータの設定 \(P.5-10\)](#)
- [Cisco Certificate Authority Proxy Function パラメータの設定 \(P.5-13\)](#)
- [Cisco CTIManager トレース パラメータの設定 \(P.5-16\)](#)
- [Cisco CTL Provider トレース パラメータの設定 \(P.5-19\)](#)
- [Cisco Database Layer Monitor トレース パラメータの設定 \(P.5-22\)](#)
- [Cisco Extended Functions トレース パラメータの設定 \(P.5-26\)](#)
- [Cisco Extension Mobility トレース パラメータの設定 \(P.5-30\)](#)
- [Cisco IP Manager Assistant トレース パラメータの設定 \(P.5-33\)](#)
- [Cisco IP Voice Media Streaming Application トレース パラメータの設定 \(P.5-36\)](#)
- [Cisco Messaging Interface トレース パラメータの設定 \(P.5-40\)](#)
- [Cisco MOH Audio Translator トレース パラメータの設定 \(P.5-43\)](#)
- [Cisco RIS Data Collector トレース パラメータの設定 \(P.5-46\)](#)
- [Cisco Telephony Call Dispatcher トレース パラメータの設定 \(P.5-50\)](#)
- [Cisco TFTP トレース パラメータの設定 \(P.5-53\)](#)
- [Cisco WebDialer トレース パラメータの設定 \(P.5-56\)](#)

- デバッグ トレース レベルの設定値 (P.5-59)
- Device Name Based Trace Monitoring トレース パラメータの設定 (P.5-60)
- SDL トレース パラメータの設定 (P.5-64)
- トレース ログ ファイルの表示 (P.5-69)
- トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 (P.5-71)
- トレース フィルタ設定値 (P.5-72)
- トレース出力設定値 (P.5-73)
- ディスク ドライブを 4 つ搭載したサーバのトレース ファイル収集用の設定 (P.5-74)

Cisco CallManager Serviceability には、Web ベースのトレース ツールが用意されています。このツールは、システム管理者やサポート担当者が、Cisco CallManager の問題をトラブルシューティングする際に役立ちます。トレースの主な機能は、次の 3 つです。

- トレース パラメータの設定
- トレース ファイルの収集
- 問題のトラブルシューティングに使用するトレース データの分析

トレースとアラームは一体となって動作します。ユーザが Cisco CallManager サービスにトレースとアラームを設定し、Cisco TAC のエンジニアが結果を受け取ります。アラームは、Win2000 イベント ビューア、CiscoWorks2000 Syslog、system diagnostic interface (SDI) または signal distribution layer (SDL) トレース ログ ファイル、あるいはこれらすべての宛先に送ることができます。デバッグ レベル、特定のトレース フィールド、および電話機やゲートウェイなどの Cisco CallManager デバイスに基づいて、Cisco CallManager サービスをトレースできます。SDI トレースまたは SDL トレースのログ ファイルに送られたアラームのトレースを実行できます。

Trace Configuration ツールを使用して、Cisco CallManager の問題をトラブルシューティングするときにトレースするパラメータを指定します。Trace Configuration ウィンドウには、トレース フィルタとトレース出力の 2 種類の設定値が表示されます。

次のトレース パラメータを指定します。

- Cisco CallManager サーバ (クラスタ内の)
- サーバ上の Cisco CallManager サービス
- デバッグ レベル
- 個々のトレース フィールド
- 出力設定値

サービスが Cisco CallManager や Cisco CTIManager などのコール処理アプリケーションの場合は、電話機やゲートウェイなどのデバイスに対してトレースを設定できます。たとえば、555 で始まる電話番号をもつ、使用可能なすべての電話機にトレースを絞り込むことができます。



(注)

SDI トレース ログ ファイル内のアラームをログに記録するには、トレース設定のチェックボックス 2 つ、アラーム設定のチェックボックス 1 つをオンにします。つまり、トレース設定の Trace on チェックボックス、トレース設定の Enable trace file log チェックボックス、アラーム設定の SDI alarm destination チェックボックスです。



(注)

トレースを使用可能にするとシステム パフォーマンスが低下します。このため、トラブルシューティングを行う場合にだけトレースを使用可能にしてください。トレースの使用方法については、Cisco TAC にお問い合わせください。

## Cisco CallManager トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco CallManager サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco CallManager サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。

**ステップ7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

6つのデバッグ トレース レベルのリストが表示されます。

**ステップ8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。

**ステップ9** Cisco CallManager Trace Fields チェックボックスをオンにします。

表 5-1 に、選択可能なオプションを示します。

**表 5-1 Cisco CallManager トレース フィールド**


フィールド名	説明
Enable H245 Message Trace	H245 メッセージのトレースをアクティブにします。
Enable DT-24+/DE-30+ Trace	DT-24+/DE-30+ デバイス トレースの ISDN タイプのロギングをアクティブにします。
Enable PRI Trace	一次群速度インターフェイス (PRI) デバイスのトレースをアクティブにします。
Enable ISDN Translation Trace	ISDN メッセージのトレースをアクティブにします。通常のデバッグ時に使用されます。
Enable H225 & Gatekeeper Trace	H.225 デバイスのトレースをアクティブにします。通常のデバッグ時に使用されます。
Enable Miscellaneous Trace	各種デバイスのトレースをアクティブにします。
	 <p><b>(注)</b> 通常のシステム操作時には、このチェックボックスをオンにしないでください。</p>
Enable Conference Bridge Trace	Conference Bridge のトレースをアクティブにします。通常のデバッグ時に使用されます。

表 5-1 Cisco CallManager トレース フィールド (続き)

フィールド名	説明
Enable Music on Hold Trace	Music On Hold (MOH; 保留音) デバイスのトレースをアクティブにします。 Cisco CallManager への登録、Cisco CallManager からの登録解除、リソース割り当て処理の成功や失敗など、MOH デバイスの状況のトレースに使用します。
Enable CM Real-Time Information Server Trace	リアルタイム情報サーバが使用する Cisco CallManager リアルタイム情報トレースをアクティブにします。
Enable SIP Stack Trace	SIP Stack のトレースをアクティブにします。
Enable Annunciator Trace	Annunciator のトレースをアクティブにします。Annunciator は、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを使用する SCCP デバイスです。これを使用すると、Cisco IP Phone、ゲートウェイ、その他の設定可能なデバイスなどに対する、あらかじめ録音されたアナウンス (.wav ファイル) およびトーンを Cisco CallManager で再生できます。
Enable CDR Trace	CDR のトレースをアクティブにします。
Enable Analog Trunk Trace	Analog Trunk (AT; アナログ トランク) ゲートウェイすべてのトレースをアクティブにします。
Enable All Phone Device Trace	電話機のトレースをアクティブにします。トレース情報には SoftPhone デバイスが含まれます。通常のデバッグ時に使用されます。
Enable MTP Trace	Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) デバイスのトレースをアクティブにします。通常のデバッグ時に使用されます。
Enable All Gateway Trace	アナログおよびデジタルのゲートウェイすべてのトレースをアクティブにします。

表 5-1 Cisco CallManager トレース フィールド (続き)

フィールド名	説明
Enable Forward and Miscellaneous Trace	コール転送、および他のチェックボックスに含まれないサブシステムすべてのトレースをアクティブにします。通常のデバッグ時に使用されます。
Enable MGCP Trace	Media Gateway Control Protocol (MGCP) デバイスのトレースをアクティブにします。通常のデバッグ時に使用されます。
Enable Media Resource Manager Trace	Media Resource Manager (MRM) のアクティビティのトレースをアクティブにします。
Enable SIP Call Processing Trace	SIP コール処理のトレースをアクティブにします。
Enable Keep Alive Trace	キープアライブ メッセージのトレースをアクティブにします。通常のデバッグ時に使用されます。

**ステップ 10** 特定の Cisco CallManager デバイスに関するトレース情報を入手する場合は、Device Name Based Trace Monitoring チェックボックスをオンにします。P.5-60 の「[Device Name Based Trace Monitoring トレース パラメータの設定](#)」を参照してください。

デバイスのほかに非デバイスにもトレースを適用する場合は、Include Non-device Traces チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、表 5-11 の説明に従って、適切なデバッグ トレース レベルを設定してください。

**ステップ 11** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルトパラメータがフィールドに表示されます。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルト パラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



(注) トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

Cisco CallManager に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\CCM\ccm.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルトパラメータについては、表 5-16 を参照してください。

**ステップ 12** トレース情報を Trace Analysis 用に使用する場合は、Enable XML Formatted Output チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、ログ ファイルはテキスト形式で編集され、Trace Analysis 用には使用できません。

**ステップ 13** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。

**ステップ 14** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

Cisco CallManager に対するトレース設定の変更は、即時に有効になります。



(注) デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、Apply to all Nodes チェックボックスをオンにします。

#### 関連項目

- [デバッグ トレース レベルの設定値 \(P.5-59\)](#)
- [トレース分析の設定 \(P.7-1\)](#)
- [トレース ログ ファイルの表示 \(P.5-69\)](#)
- [Device Name Based Trace Monitoring トレース パラメータの設定 \(P.5-60\)](#)



- [トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 \(P.5-71\)](#)
- [トレース フィルタ設定値 \(P.5-72\)](#)
- [トレース出力設定値 \(P.5-73\)](#)
- [アラームの設定 \(P.2-1\)](#)
- [トレース収集の設定 \(P.6-1\)](#)
- [トレース分析の設定 \(P.7-1\)](#)
- [Bulk Trace Analysis \(P.24-1\)](#)

## Cisco CDR Insert トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco CDR Insert サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco CDR Insert サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

7つのデバッグ トレース レベルのリストが表示されます。

**ステップ 8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルを選択します。

**ステップ 9** Cisco CDR Insert Trace Fields チェックボックスをオンにします。

**ステップ 10** Enable CDR Insert Trace チェックボックスをオンにします。

**ステップ 11** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルト パラメータがフィールドに表示されます。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルト パラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

Cisco CDR Insert に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\DBL\InsertCDR.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルト パラメータについては、表 5-16 を参照してください。

**ステップ 12** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。

**ステップ 13** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

#### 関連項目

- [デバッグ トレース レベルの設定値 \(P.5-59\)](#)
- [トレース ログ ファイルの表示 \(P.5-69\)](#)
- [トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 \(P.5-71\)](#)
- [トレース フィルタ設定値 \(P.5-72\)](#)
- [トレース出力設定値 \(P.5-73\)](#)

# Cisco Certificate Authority Proxy Function パラメータの設定

ここでは、Cisco Certificate Authority Proxy Function サービスに対してトレースパラメータを設定する方法を説明します。

## 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco Certificate Authority Proxy Function サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレースパラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレースパラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

## Cisco Certificate Authority Proxy Function パラメータの設定

- ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。
- 7つのデバッグ トレース レベルのリストが表示されます。
- ステップ 8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。
- ステップ 9** Cisco Certificate Authority Proxy Function Trace Fields チェックボックスをオンにします。
- ステップ 10** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルトパラメータがフィールドに表示されます。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルト パラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

Cisco Certificate Authority Proxy Function に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\CAPF\CAPF.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルト パラメータについては、表 5-16 を参照してください。

- ステップ 11** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。

**ステップ 12** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

Cisco Certificate Authority Proxy Function により、トレース設定値の変更が即時に検出されます。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

#### 関連項目

- [デバッグ トレース レベルの設定値 \(P.5-59\)](#)
- [Device Name Based Trace Monitoring トレース パラメータの設定 \(P.5-60\)](#)
- [トレース分析の設定 \(P.7-1\)](#)
- [トレース ログ ファイルの表示 \(P.5-69\)](#)
- [トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 \(P.5-71\)](#)
- [トレース フィルタ設定値 \(P.5-72\)](#)
- [トレース出力設定値 \(P.5-73\)](#)
- [アラームの設定 \(P.2-1\)](#)
- [トレース収集の設定 \(P.6-1\)](#)
- [トレース分析の設定 \(P.7-1\)](#)
- [Bulk Trace Analysis \(P.24-1\)](#)

## Cisco CTIManager トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco CTIManager サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco CTIManager サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。



**ステップ 7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

7つのデバッグ トレース レベルのリストが表示されます。

**ステップ 8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。

**ステップ 9** Cisco CTIManager Trace Fields チェックボックスをオンにします。

**ステップ 10** Cisco CTIManager トレース パラメータをすべて選択する場合は、Enable All Trace チェックボックスをオンにします。

**ステップ 11** 特定の Cisco CTIManager デバイスに関するトレース情報を入手する場合は、Device Name Based Trace Monitoring チェックボックスをオンにします。P.5-60 の「[Device Name Based Trace Monitoring トレース パラメータの設定](#)」を参照してください。

デバイスのほかに非デバイスにもトレースを適用する場合は、Include Non-device Traces チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにした場合は、表 5-11 の説明に従って、適切なデバッグ トレース レベルを設定してください。

**ステップ 12** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルトパラメータがフィールドに表示されます。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルトパラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

## Cisco CTIManager トレース パラメータの設定

Cisco CTIManager に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\CTI\cti.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルトパラメータについては、表 5-16 を参照してください。

**ステップ 13** トレース情報を Trace Analysis 用に使用する場合は、Enable XML Formatted Output チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、ログ ファイルはテキスト形式で編集され、Trace Analysis 用には使用できません。

**ステップ 14** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。

**ステップ 15** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

Cisco CTIManager により、トレース設定値の変更が即時に検出されます。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

**関連項目**

- [デバッグ トレース レベルの設定値 \(P.5-59\)](#)
- [Device Name Based Trace Monitoring トレース パラメータの設定 \(P.5-60\)](#)
- [トレース分析の設定 \(P.7-1\)](#)
- [トレース ログ ファイルの表示 \(P.5-69\)](#)
- [トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 \(P.5-71\)](#)
- [トレース フィルタ設定値 \(P.5-72\)](#)
- [トレース出力設定値 \(P.5-73\)](#)
- [アラームの設定 \(P.2-1\)](#)
- [トレース収集の設定 \(P.6-1\)](#)
- [トレース分析の設定 \(P.7-1\)](#)
- [Bulk Trace Analysis \(P.24-1\)](#)

## Cisco CTL Provider トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco CTL Provider サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco CTL Provider サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

7つのデバッグ トレース レベルのリストが表示されます。

- ステップ 7** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。
- ステップ 8** Cisco CTL Provider Trace Fields チェックボックスをオンにします。
- ステップ 9** Enable CTL Provider Service Trace チェックボックスをオンにします。
- ステップ 10** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルト パラメータがフィールドに表示されます。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルト パラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

Cisco CTL Provider に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\CTLProvider\CTLProvider.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルト パラメータについては、表 5-16 を参照してください。

- ステップ 11** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。
- ステップ 12** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。
- Cisco CTL Provider に対するトレース設定の変更は、即時に有効になります。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

#### 関連項目

- [デバッグ トレース レベルの設定値 \(P.5-59\)](#)
- [トレース ログ ファイルの表示 \(P.5-69\)](#)
- [トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 \(P.5-71\)](#)
- [トレース フィルタ設定値 \(P.5-72\)](#)
- [トレース出力設定値 \(P.5-73\)](#)
- [アラームの設定 \(P.2-1\)](#)

# Cisco Database Layer Monitor トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco Database Layer Monitor サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

## 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco Database Layer Monitor サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

7つのデバッグ トレース レベルのリストが表示されます。



**(注)** Cisco Database Layer Monitor のデフォルトのデバッグ トレース レベルは Detailed です。

**ステップ 8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。

**ステップ 9** Cisco Database Layer Monitor Trace Fields チェックボックスをオンにします。

表 5-2 に、選択可能な 9 個のオプションを示します。

**表 5-2 Database Layer Monitor トレース フィールド**

フィールド名	説明
Enable Detailed DB Trace	最低レベルのレイヤ (SQL 文) のトレースをアクティブにします。
Enable DBLX Trace	データベース レイヤに対する ActiveX インターフェイスのトレースをアクティブにします。トレース結果は DBLX.txt ファイルに送られます。
Enable LDAP Trace	データベース レイヤに対する Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) インターフェイスのトレースをアクティブにします。
Enable Unit Test Trace	このチェックボックスはオンにしません。シスコのエンジニアがデバッグ用に使用します。
Enable CCM Change Notification Trace	Cisco CallManager とデータベース レイヤ間の通信をモニタするためのトレースをアクティブにします。

表 5-2 Database Layer Monitor トレース フィールド (続き)

フィールド名	説明
Enable Business Rules Trace	ビジネス ルールとトランザクションのトレースをアクティブにします。トレース結果は DBLR.txt ファイルと DBLRt.txt ファイルに送られます。
Enable DB Change Notification Trace	データベース変更通知のトレースをアクティブにします。
Enable All DB Trace	データベースを使用するアプリケーションプログラムすべてのトレースをアクティブにします。トレースを開始する前に、このデータベースを使用するアプリケーションをすべて再起動する必要があります。トレース結果は DBL.txt ファイルに送られます。
Enable Change Notification Service Trace	Cisco CallManager を除くすべてのサービスとデータベース レイヤ間の通信をモニタするためのトレースをアクティブにします。

**ステップ 10** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルトパラメータがフィールドに表示されません。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルトパラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。



Cisco Database Layer Monitor に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\DBL\Aupair.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルト パラメータについては、表 5-16 を参照してください。

**ステップ 11** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。

**ステップ 12** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

Cisco Database Layer Monitor に対するトレース設定の変更は、即時に有効になります。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

#### 関連項目

- デバッグ トレース レベルの設定値 (P.5-59)
- トレース ログ ファイルの表示 (P.5-69)
- トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 (P.5-71)
- トレース フィルタ設定値 (P.5-72)
- トレース出力設定値 (P.5-73)
- アラームの設定 (P.2-1)

## Cisco Extended Functions トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco Extended Functions サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco Extended Functions サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。

**ステップ7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

デバッグ トレース レベルのリストが表示されます。

**ステップ8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。



**(注)** デフォルトのデバッグ トレース レベルは Error です。

**ステップ9** Cisco Extended Functions Trace Fields チェックボックスをオンにします。

表 5-3 に、選択可能なオプションを示します。

**表 5-3 Cisco Extended Functions トレース フィールド**

フィールド名	説明
Enable QBE Helper TSP Trace	テレフォニー サービス プロバイダーのトレースをアクティブにします。
Enable QBE Helper TSPI Trace	QBE Helper TSP インターフェイス のトレースをアクティブにします。
Enable QRT Dictionary Trace	品質評価レポート ツール サービス ディクショナリのトレースをアクティブにします。
Enable Template Map Traces	標準テンプレート マップおよびマルチマップのトレースをアクティブにします。
Enable QBE Helper CTI Trace	QBE ヘルパーの CTI インターフェイスのトレースをアクティブにします。
Enable QRT Event Handler Trace	品質評価レポート ツール イベント ハンドラのトレースをアクティブにします。
Enable QRT Report Handler Trace	品質評価レポート ツール レポート ハンドラのトレースをアクティブにします。
Enable QRT Service Trace	品質評価レポート ツール レポート関連のトレースをアクティブにします。

表 5-3 Cisco Extended Functions トレース フィールド (続き)

フィールド名	説明
Enable QRT DB Traces	DB アクセスのトレースをアクティブにします。
Enable DOM Helper Traces	DOM ヘルパーのトレースをアクティブにします。
Enable Redundancy and Change Notification Trace	データベース変更通知のトレースをアクティブにします。

**ステップ 10** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルト パラメータがフィールドに表示されません。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルト パラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

Cisco Extended Functions に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\CEF\cef.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルト パラメータについては、表 5-16 を参照してください。

**ステップ 11** トレース情報を Trace Analysis 用に使用する場合は、Enable XML Formatted Output チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、ログ ファイルはテキスト形式で編集され、Trace Analysis 用には使用できません。

**ステップ 12** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。

**ステップ 13** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

Cisco Extended Functions に対するトレース設定の変更は、即時に有効になりません。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

#### 関連項目

- [デバッグ トレース レベルの設定値 \(P.5-59\)](#)
- [トレース ログ ファイルの表示 \(P.5-69\)](#)
- [Device Name Based Trace Monitoring トレース パラメータの設定 \(P.5-60\)](#)
- [トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 \(P.5-71\)](#)
- [トレース フィルタ設定値 \(P.5-72\)](#)
- [トレース出力設定値 \(P.5-73\)](#)
- [アラームの設定 \(P.2-1\)](#)

## Cisco Extension Mobility トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco Extension Mobility サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco Extension Mobility サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

7つのデバッグ トレース レベルのリストが表示されます。

**ステップ 8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。

**ステップ 9** Cisco Extension Mobility Trace Fields チェックボックスをオンにします。

表 5-4 に、選択可能なオプションを示します。

**表 5-4 Cisco Extension Mobility トレース フィールド**

フィールド名	説明
Enable EM Service Trace	Extension Mobility サービスのトレースをアクティブにします。
Enable EM Application Trace	Extension Mobility サービスのアプリケーション トレースをアクティブにします。

**ステップ 10** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルトパラメータがフィールドに表示されます。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルトパラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

Cisco Extension Mobility に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\EM\EMSvc.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルトパラメータについては、表 5-16 を参照してください。

## Cisco Extension Mobility トレース パラメータの設定

**ステップ 11** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。

**ステップ 12** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

Cisco Extension Mobility に対するトレース設定の変更は、即時に有効になります。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

**関連項目**

- [デバッグ トレース レベルの設定値 \(P.5-59\)](#)
- [トレース ログ ファイルの表示 \(P.5-69\)](#)
- [トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 \(P.5-71\)](#)
- [トレース フィルタ設定値 \(P.5-72\)](#)
- [トレース出力設定値 \(P.5-73\)](#)
- [アラームの設定 \(P.2-1\)](#)



## Cisco IP Manager Assistant トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco IP Manager Assistant サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco IP Manager Assistant サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。

## Cisco IP Manager Assistant トレース パラメータの設定

**ステップ 7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

7つのデバッグ トレース レベルのリストが表示されます。

**ステップ 8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。

**ステップ 9** Cisco IP Manager Assistant Trace Fields チェックボックスをオンにします。

表 5-5 に、選択可能なオプションを示します。

**表 5-5 Cisco IP Manager Assistant トレース フィールド**

フィールド名	説明
Enable IPMA Service Trace	Cisco IP Manager Assistant サービスのトレースをアクティブにします。
Enable IPMA Manager Configuration Change Log	Cisco IPMA Manager サービスの設定変更ログをアクティブにします。
Enable IPMA CTI Trace	Cisco IPMA の CTI トレースをアクティブにします。

**ステップ 10** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルトパラメータがフィールドに表示されません。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルト パラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

Cisco IP Manager Assistant に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\IPMA\IPMA.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルト パラメータについては、表 5-16 を参照してください。

**ステップ 11** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。

**ステップ 12** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

Cisco IPMA Manager Assistant に対するトレース設定の変更は、即時に有効になります。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

#### 関連項目

- デバッグ トレース レベルの設定値 (P.5-59)
- トレース ログ ファイルの表示 (P.5-69)
- トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 (P.5-71)
- トレース フィルタ設定値 (P.5-72)
- トレース出力設定値 (P.5-73)
- アラームの設定 (P.2-1)

# Cisco IP Voice Media Streaming Application トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスに対するトレースパラメータを設定する方法を説明します。

## 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Servers** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco IP Voice Media Streaming App サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

7つのデバッグ トレース レベルのリストが表示されます。

**ステップ 8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。

**ステップ 9** Cisco IP Voice Media Streaming App Trace Fields チェックボックスをオンにします。

表 5-6 に、選択可能なオプションを示します。

**表 5-6 IP Voice Media Streaming Application トレース フィールド**

フィールド名	説明
Enable Service Initialization Trace	初期化情報のトレースをアクティブにします。
Enable MTP Device Trace	MTP に関する処理済みメッセージをモニターするためのトレースをアクティブにします。
Enable Device Recovery Trace	MTP、Conference Bridge、および MOH のデバイス回復関連情報のトレースをアクティブにします。
Enable Skinny Station Messages Trace	Skinny Station Protocol のトレースをアクティブにします。
Enable WinSock Level 2 Trace	高レベルの詳細な WinSock 関連情報のトレースをアクティブにします。
Enable Music On Hold Manager Trace	MOH オーディオ ソース マネージャをモニターするためのトレースをアクティブにします。
Enable DB Setup Manager Trace	データベースのセットアップ、および MTP、Conference Bridge、MOH の変更をモニターするためのトレースをアクティブにします。

表 5-6 IP Voice Media Streaming Application トレース フィールド (続き)

フィールド名	説明
Enable Conference Bridge Device Trace	Conference Bridge に関する処理済みメッセージをモニタするためのトレースをアクティブにします。
Enable Device Driver Trace	デバイス ドライバのトレースをアクティブにします。
Enable WinSock Level 1 Trace	低レベルの一般的な WinSock 関連情報のトレースをアクティブにします。
Enable Music on Hold Device Trace	MOH に関する処理済みメッセージをモニタするためのトレースをアクティブにします。
Enable TFTP Downloads Trace	MOH オーディオ ソース ファイルのダウンロードをモニタするためのトレースをアクティブにします。
Enable Annunciator Trace	Annunciator をモニタするためのトレースをアクティブにします。

**ステップ 10** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルトパラメータがフィールドに表示されます。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルト パラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

Cisco IP Voice Media Streaming Application に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\CMS\cms.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルト パラメータについては、表 5-16 を参照してください。

**ステップ 11** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。

**ステップ 12** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

Cisco IP Voice Media Streaming Application に対するトレース設定の変更は、即時に有効になります。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

#### 関連項目

- デバッグ トレース レベルの設定値 (P.5-59)
- トレース ログ ファイルの表示 (P.5-69)
- トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 (P.5-71)
- トレース フィルタ設定値 (P.5-72)
- トレース出力設定値 (P.5-73)
- アラームの設定 (P.2-1)

## Cisco Messaging Interface トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco Messaging Interface サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco Messaging Interface サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。



**ステップ 7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

7つのデバッグ トレース レベルのリストが表示されます。



---

**(注)** Cisco Messaging Interface のデフォルトのデバッグ トレース レベルは Error です。

---

**ステップ 8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルを選択します。

**ステップ 9** Cisco Messaging Interface チェックボックスをオンにします。

**ステップ 10** Enable All Trace チェックボックスをオンにします。

**ステップ 11** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルト パラメータがフィールドに表示されます。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルト パラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



---

**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

---

Cisco Messaging Interface に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\CMI\csumi.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルト パラメータについては、表 5-16 を参照してください。

## Cisco Messaging Interface トレース パラメータの設定

**ステップ 12** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。

**ステップ 13** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

Cisco Messaging Interface に対するトレース設定の変更は、3 ～ 5 分以内に有効になります。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

**関連項目**

- [デバッグ トレース レベルの設定値 \(P.5-59\)](#)
- [トレース ログ ファイルの表示 \(P.5-69\)](#)
- [トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 \(P.5-71\)](#)
- [トレース フィルタ設定値 \(P.5-72\)](#)
- [トレース出力設定値 \(P.5-73\)](#)
- [アラームの設定 \(P.2-1\)](#)

## Cisco MOH Audio Translator トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco MOH Audio Translator サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco MOH Audio Translator サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。

## Cisco MOH Audio Translator トレース パラメータの設定

**ステップ 7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

7つのデバッグ トレース レベルのリストが表示されます。



**(注)** Cisco MOH Audio Translator のデフォルトのデバッグ トレース レベルは Error です。

**ステップ 8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。

**ステップ 9** Cisco MOH Audio Translator Trace Fields チェックボックスをオンにします。

**ステップ 10** MOH Audio Translator トレース パラメータをすべて選択する場合は、Enable All Trace チェックボックスをオンにします。

**ステップ 11** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルトパラメータがフィールドに表示されません。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルト パラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

Cisco MOH Audio Translator に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\CMS\at.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルトパラメータについては、表 5-16 を参照してください。

**ステップ 12** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。

**ステップ 13** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

Cisco MOH Audio Translator に対するトレース設定の変更は、1 分以内に有効になります。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

#### 関連項目

- [デバッグ トレース レベルの設定値 \(P.5-59\)](#)
- [トレース ログ ファイルの表示 \(P.5-69\)](#)
- [トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 \(P.5-71\)](#)
- [トレース フィルタ設定値 \(P.5-72\)](#)
- [トレース出力設定値 \(P.5-73\)](#)
- [アラームの設定 \(P.2-1\)](#)

## Cisco RIS Data Collector トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco RIS Data Collector サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco RIS Data Collector サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

7つのデバッグ トレース レベルのリストが表示されます。

**ステップ 8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。

**ステップ 9** Cisco RIS Data Collector Trace Fields チェックボックスをオンにします。

表 5-7 に、選択可能なオプションを示します。

**表 5-7 RIS Data Collector トレース フィールド**

フィールド名	説明
Enable RISDC Trace	Real-time Information Server (RIS; リアルタイム情報サーバ) データ コレクタの RISDC スレッドのトレースをアクティブにします。
Enable Link Services Trace	RIS データ コレクタとその RISX クライアントの両方にあるリンク サービス ライブラリのトレースをアクティブにします。
Enable RISDB Trace	RIS データ コレクタにある RISDB ライブラリのトレースをアクティブにします。
Enable SNMPDC Trace	RIS データ コレクタの SNMPDC スレッドのトレースをアクティブにします。
Enable RISX Trace	RIS データ コレクタにある RISX クライアントのトレースをアクティブにします。
Enable RISDC Access Trace	RIS データ コレクタにある RISDC アクセスライブラリのトレースをアクティブにします。
Enable Real-Time Monitoring Tool Trace	RIS データ コレクタにある Real-Time Monitoring Tool ISAPI クライアントのトレースをアクティブにします。

表 5-7 RIS Data Collector トレース フィールド (続き)

フィールド名	説明
Enable CCM SNMP Agent Trace	CCM SNMP エージェントのトレースをアクティブにします。
Enable AXL-Serviceability API Trace	RISDC サービスの AXL-Serviceability API の SOAP トレースをアクティブにします。

**ステップ 10** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログファイル名とデフォルトパラメータがフィールドに表示されます。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルトパラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

Cisco RIS Data Collector に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\RIS\ris.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルトパラメータについては、表 5-16 を参照してください。

**ステップ 11** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。



**ステップ 12** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

トレース設定の変更は即時に有効になります。ただし、トレース設定の変更は Cisco RIS Data Collector の2つのダイナミックリンクライブラリ (DLL) (RISX.dll と ASTIsapi.dll) に影響します。これらの DLL は Internet Information Services (IIS) プロセスに属しているため、トレース設定を変更するには IIS プロセスを再起動する必要があります。IIS を開始および停止する手順については、Microsoft Windows の資料を参照してください。



**(注)** IIS プロセスを再起動すると、Cisco CallManager Administration と Real-Time Monitoring Tool によって使用される Web サーバを含め、すべてのインターネットサービスが停止され、再起動されます。これらのプログラムは、IIS の再起動中は使用できなくなります。AST ブラウザのウィンドウが開いている場合は、IIS の再起動後にウィンドウを閉じてから再び開く必要があります。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

#### 関連項目

- デバッグ トレース レベルの設定値 (P.5-59)
- トレース ログ ファイルの表示 (P.5-69)
- トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 (P.5-71)
- トレース フィルタ設定値 (P.5-72)
- トレース出力設定値 (P.5-73)
- アラームの設定 (P.2-1)

# Cisco Telephony Call Dispatcher トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco Telephony Call Dispatcher サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

## 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco Telephony Call Dispatcher サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

- ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。
- デバッグ トレース レベルのリストが表示されます。
- ステップ 8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルの設定値をクリックします。
- ステップ 9** Cisco Telephony Call Dispatcher Trace Fields チェックボックスをオンにします。
- ステップ 10** Enable low level trace チェックボックスまたは Enable high level trace チェックボックス、あるいは両方をオンにします。

表 5-8 に、選択可能な 2 個のオプションを示します。

**表 5-8 Telephony Call Dispatcher トレース フィールド**

フィールド名	説明
Enable low level trace	低レベルのトレースをアクティブにします。
Enable high level trace	高レベルのトレースをアクティブにします。

- ステップ 11** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルトパラメータがフィールドに表示されません。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルトパラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

## Cisco Telephony Call Dispatcher トレース パラメータの設定

Cisco Telephony Call Dispatcher に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\TCD\tcdsrv.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルト パラメータについては、表 5-16 を参照してください。

**ステップ 12** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。

**ステップ 13** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

**関連項目**

- [デバッグ トレース レベルの設定値 \(P.5-59\)](#)
- [トレース ログ ファイルの表示 \(P.5-69\)](#)
- [トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 \(P.5-71\)](#)
- [トレース フィルタ設定値 \(P.5-72\)](#)
- [トレース出力設定値 \(P.5-73\)](#)
- [アラームの設定 \(P.2-1\)](#)

## Cisco TFTP トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco TFTP サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Servers** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco TFTP サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** クラスタ内にあるすべての Cisco CallManager サーバにトレースを適用する場合は、Apply to All Nodes チェックボックスをオンにします。

## Cisco TFTP トレース パラメータの設定

**ステップ 7** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

デバッグ トレース レベルのリストが表示されます。

**ステップ 8** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。

**ステップ 9** Cisco tftp Trace Fields チェックボックスをオンにします。

表 5-9 に、選択可能な 3 個のオプションを示します。

**表 5-9 TFTP トレース フィールド**

フィールド名	説明
Enable Service System Trace	サービス システムのトレースをアクティブにします。
Enable Build File Trace	ファイルの作成に関するトレースをアクティブにします。
Enable Serve File Trace	ファイルの提供に関するトレースをアクティブにします。

**ステップ 10** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルトパラメータがフィールドに表示されません。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルト パラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

Cisco TFTP に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\TFTP\ctftp.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルト パラメータについては、表 5-16 を参照してください。

**ステップ 11** トレース情報を Trace Analysis 用に使用する場合は、Enable XML Formatted Output チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、ログ ファイルはテキスト形式で編集され、Trace Analysis 用には使用できません。

**ステップ 12** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。

**ステップ 13** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

Cisco TFTP に対するトレース設定の変更は、即時に有効になります。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

### 関連項目

- デバッグ トレース レベルの設定値 (P.5-59)
- トレース ログ ファイルの表示 (P.5-69)
- トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 (P.5-71)
- トレース フィルタ設定値 (P.5-72)
- トレース出力設定値 (P.5-73)
- アラームの設定 (P.2-1)
- トレース収集の設定 (P.6-1)
- トレース分析の設定 (P.7-1)
- Bulk Trace Analysis (P.24-1)

## Cisco WebDialer トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco WebDialer サービスに対してトレース パラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

**ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Servers** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

**ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco WebDialer サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。



**(注)** 選択したサービスのトレース パラメータだけが表示されます。その他のパラメータはすべてグレー表示されます。

**ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

デバッグ トレース レベルのリストが表示されます。



**ステップ 7** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。

**ステップ 8** Cisco WebDialer Trace Fields チェックボックスをオンにします。

表 5-10 に、選択可能なオプションを示します。

**表 5-10 Cisco WebDialer トレース フィールド**

フィールド名	説明
Enable WebDialer Servlet Trace	Cisco WebDialer servlet のトレースをアクティブにします。
Enable Redirector Servlet Trace	Redirector servlet のトレースをアクティブにします。

**ステップ 9** トレース情報をログ ファイルに送る場合は、Enable File Trace Log チェックボックスをオンにします。

デフォルト ログ ファイル名とデフォルトパラメータがフィールドに表示されます。トレース情報を別のファイルに送る場合は、File Name フィールドをクリックしてファイル名とパス名を指定します。デフォルトパラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。



**(注)** トレースを実行するとファイル名が検証され、ファイル名の拡張子は必ず .txt になります。別のコンピュータに存在するファイル名を使用しないでください。トレースを実行するコンピュータに存在するファイル名を使用してください。

Cisco WebDialer に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\Webdialer\webdialer.txt です。トレース ログ ファイルのデフォルトパラメータについては、表 5-16 を参照してください。

**ステップ 10** システムをデバッグしているシスコ エンジニアは、Enable Debug Output String チェックボックスをオンにします。それ以外の方は、次のステップに進んでください。

**ステップ 11** トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

Cisco WebDialer に対するトレース設定の変更は、即時に有効になります。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。



#### 関連項目

- [デバッグ トレース レベルの設定値 \(P.5-59\)](#)
- [トレース ログ ファイルの表示 \(P.5-69\)](#)
- [トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 \(P.5-71\)](#)
- [トレース フィルタ設定値 \(P.5-72\)](#)
- [トレース出力設定値 \(P.5-73\)](#)
- [アラームの設定 \(P.2-1\)](#)
- [トレース収集の設定 \(P.6-1\)](#)
- [トレース分析の設定 \(P.7-1\)](#)
- [Bulk Trace Analysis \(P.24-1\)](#)

## デバッグ トレース レベルの設定値

表 5-11 に、デバッグ トレース レベルの設定値を示します。

表 5-11 デバッグ トレース レベル

レベル	説明
Error	アラーム状態とイベントをトレースします。異常なパスで生成されたすべてのトレースに使用されます。最小限の CPU サイクルを使用します。
Special	すべての Error 状態に加えて、プロセス メッセージとデバイス初期化メッセージをトレースします。
State Transition	すべての Special 状態に加えて、通常の動作時に発生するサブシステムの状態遷移をトレースします。コール処理イベントをトレースします。
Significant	すべての State Transition 状態に加えて、通常の動作中に発生するメディア レイヤ イベントをトレースします。
Entry/Exit	すべての Significant 状態に加えて、ルーチンの Entry Point と Exit Point をトレースします。このトレース レベルを使用しないサービスもあります (たとえば、Cisco CallManager は使用しません)。
Arbitrary	すべての Entry/Exit 状態に加えて、低いレベルのデバッグ情報をトレースします。  <b>(注)</b> Cisco CallManager サービスまたは Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスに対して、通常の動作中にこのトレース レベルを使用しないでください。
Detailed	すべての Arbitrary 状態に加えて、詳細なデバッグ情報をトレースします。  <b>(注)</b> Cisco CallManager サービスまたは Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスに対して、通常の動作中にこのトレース レベルを使用しないでください。

## Device Name Based Trace Monitoring トレース パラメータの設定

生成されるトレース ログ数を絞り込み、コール処理に対する影響を抑えるには、このトレース設定オプションを使用します。このオプションを指定すると、選択したデバイスだけがトレースされます。

ここでは、Cisco CallManager と Cisco CTIManager の両サービスに対して、デバイス名に基づくトレース モニタリングのパラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。

Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** **Trace > Configuration** を選択します。

- ステップ 3** Servers 列で、サーバを選択します。

選択したサーバが **Current Server** というタイトルの隣に表示され、設定済みのサービスがボックスに表示されます。

- ステップ 4** Configured Services ボックスから Cisco CallManager または Cisco CTIManager サービスを選択します。

選択したサービスは、選択済みの現行サーバとともに、**Current Service** というタイトルの隣に表示されます。選択したサービスのトレース パラメータが表示されます。

- ステップ 5** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** Debug Trace Level 選択ボックスの下向き矢印をクリックします。

7つのデバッグ トレース レベルのリストが表示されます。

**ステップ 7** 表 5-11 の説明に従って、使用するデバッグ トレース レベルをクリックします。

**ステップ 8** Cisco CallManager 用のデバイスを設定する場合は、Cisco CallManager Trace Fields チェックボックスをオンにします。Cisco CTIManager 用のデバイスを設定する場合は、Cisco CTIManager Trace Fields チェックボックスをオンにします。

Cisco CallManager Trace フィールドの詳細については、表 5-1 を参照してください。

**ステップ 9** Device Name Based Trace Monitoring チェックボックスをオンにします。

**ステップ 10** Select Devices ボタンをクリックします。

Device Selection for Tracing ウィンドウが表示されます。



#### ヒント

Cisco CallManager Administration の **System > Enterprise Parameters** を使用して、トレース可能なデバイスの最大数を設定します。Max Number of Device Level Trace フィールドに値を入力します。デフォルトは 12 です。詳細については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

**ステップ 11** Find ボックスの下向き矢印をクリックします。

**ステップ 12** 次のリストから、トレース対象のデバイスを選択します。

- Phones
- Gateways
- CTI Route Point
- Cisco Voice Mail Port
- Conference Bridge

## ■ Device Name Based Trace Monitoring トレース パラメータの設定

- Music on Hold Server
- Media Termination Point

**ステップ 13** where ボックスの下向き矢印をクリックします。

**ステップ 14** 次のリストから、トレース対象のデバイス情報のタイプを選択します。

- Device Name
- Description
- Directory Number
- Calling Search Space
- Device Pool

**ステップ 15** 2 番目のボックスの下向き矢印をクリックします。

**ステップ 16** 次のリストから、トレース対象のデバイス情報の検索基準を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 17** 前のステップでの選択項目に対応する検索基準のテキスト スtringを入力します (たとえば、ABC で始まる、123 で終わるなど)。

**ステップ 18** Trace ボックスの下向き矢印をクリックします。

**ステップ 19** 次のリストから、トレース対象のデバイスのトレース状況を選択します。

- All
- Enabled
- Disabled

**ステップ 20 Find** ボタンをクリックします。

検索結果のウィンドウに次のフィールドが表示されます。

- Device Name
- IP Address
- Description
- Status
- Trace

検索結果に続きのページがある場合は、**First**、**Previous**、**Next**、または **Last** ボタンをクリックします。

**ステップ 21** デバイス名に基づくトレース モニタリングを行う対象のデバイスの Trace チェックボックスをクリックします。

**ステップ 22 Update** ボタンをクリックします。

**ステップ 23** 更新が完了したら、**Close** ボタンをクリックして Device Selection for Tracing ウィンドウを閉じ、Trace Configuration ウィンドウに戻ります。

**ステップ 24** 選択したサービスのトレース設定パラメータを更新するには、**Update** ボタンをクリックします。

**ステップ 25** [P.5-4](#) の「Cisco CallManager トレース パラメータの設定」、および [P.5-16](#) の「Cisco CTIManager トレース パラメータの設定」の説明に従って、残りのトレース設定パラメータを設定します。

---

#### 関連項目

- [Cisco CallManager トレース パラメータの設定 \(P.5-4\)](#)
- [Cisco CTIManager トレース パラメータの設定 \(P.5-16\)](#)
- [トレース収集の設定 \(P.6-1\)](#)
- [トレース分析の設定 \(P.7-1\)](#)

## SDL トレース パラメータの設定

ここでは、Cisco CallManager と Cisco CTIManager の両サービスに対して、SDL トレース パラメータを設定する方法を説明します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager または Cisco CTIManager の Trace Configuration ウィンドウから、**SDL Configuration** リンクをクリックします。

SDL Trace Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Trace On チェックボックスをオンにします。

**ステップ 3** Cisco CallManager サービスに対する SDL パラメータを設定する場合は、表 5-12 の説明に従って、このトレースに適用する Trace Filter Settings チェックボックスをオンにします。Cisco CTIManager サービスに対する SDL パラメータを設定する場合は、表 5-13 の説明に従って、このトレースに適用する Trace Filter Settings チェックボックスをオンにします。



**(注)** Cisco のエンジニアから特別の指示がない限り、デフォルトを使用することをお勧めします。

表 5-12 Cisco CallManager SDL 設定のフィルタ設定値

設定名	説明
Enable all Layer 1 traces.	レイヤ 1 のトレースをアクティブにします。
Enable detailed Layer 1 traces.	詳細なレイヤ 1 のトレースをアクティブにします。
Enable all Layer 2 traces.	レイヤ 2 のトレースをアクティブにします。
Enable Layer 2 interface trace.	レイヤ 2 インターフェイスのトレースをアクティブにします。



表 5-12 Cisco CallManager SDL 設定のフィルタ設定値 (続き)

設定名	説明
Enable Layer 2 TCP trace.	レイヤ 2 Transmission Control Program (TCP) トレースをアクティブにします。
Enable detailed dump Layer 2 trace.	ダンプ レイヤ 2 の詳細トレースをアクティブにします。
Enable all Layer 3 traces.	レイヤ 3 のトレースをアクティブにします。
Enable all call control traces.	コール制御のトレースをアクティブにします。
Enable miscellaneous polls trace.	各種ポーリングのトレースをアクティブにします。
Enable miscellaneous trace (database signals).	データベース信号などの各種トレースをアクティブにします。
Enable message translation signals trace.	メッセージ変換信号のトレースをアクティブにします。
Enable UUIE output trace.	user-to-user informational element (UUIE) 出力のトレースをアクティブにします。
Enable gateway signals trace.	ゲートウェイ信号のトレースをアクティブにします。
Enable CTI trace.	CTI トレースをアクティブにします。
Enable CDR trace.	CDR トレースをアクティブにします。

表 5-13 Cisco CTIManager トレース SDL 設定のフィルタ設定値

設定名	説明
Enable miscellaneous polls trace.	各種ポーリングのトレースをアクティブにします。
Enable miscellaneous trace (database signals).	データベース信号などの各種トレースをアクティブにします。
Enable CTI trace.	CTI トレースをアクティブにします。

## ■ SDL トレース パラメータの設定

- ステップ 4** Cisco CallManager サービスに対する SDL パラメータを設定する場合は、表 5-14 の説明に従って、このトレースに適用する Trace Characteristics チェックボックスをオンにします。Cisco CTIManager サービスに対する SDL パラメータを設定する場合は、表 5-15 の説明に従って、このトレースに適用する Trace Characteristics チェックボックスをオンにします。

表 5-14 Cisco CallManager SDL 設定の特性

特性	説明
Enable SDL link states trace.	Intracluster Communication Protocol (ICCP; クラスタ内通信プロトコル) リンク状態のトレースをアクティブにします。
Enable low-level SDL trace.	低レベル SDL のトレースをアクティブにします。
Enable SDL link poll trace.	ICCP リンク ポーリングのトレースをアクティブにします。
Enable SDL link messages trace.	ICCP の生のメッセージのトレースをアクティブにします。
Enable signal data dump trace.	信号データ ダンプのトレースをアクティブにします。
Enable correlation tag mapping trace.	相関タグ マッピングのトレースをアクティブにします。
Enable SDL process states trace.	SDL プロセス状態のトレースをアクティブにします。
Disable pretty print of SDL trace.	SDL の Pretty Print のトレースを使用不可にします。Pretty Print は、後処理を実行せずにトレース ファイル内のタブとスペースを追加します。

表 5-15 Cisco CTIManager SDL 設定の特性

特性	説明
Enable SDL link states trace.	ICCP リンク状態のトレースをアクティブにします。
Enable low-level SDL trace.	低レベル SDL のトレースをアクティブにします。
Enable SDL link poll trace.	ICCP リンク ポーリングのトレースをアクティブにします。
Enable SDL link messages trace.	ICCP の生のメッセージのトレースをアクティブにします。
Enable signal data dump trace.	信号データ ダンプのトレースをアクティブにします。
Enable correlation tag mapping trace.	相関タグ マッピングのトレースをアクティブにします。
Enable SDL process states trace.	SDL プロセス状態のトレースをアクティブにします。
Disable pretty print of SDL trace.	SDL の Pretty Print のトレースを使用不可にします。Pretty Print は、後処理を実行せずにトレース ファイル内のタブとスペースを追加します。

**ステップ 5** トレース情報を Trace Analysis 用に使用する場合は、Enable XML Formatted Output チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、ログ ファイルはテキスト形式で編集され、Trace Analysis 用には使用できません。

デフォルトのトレース ディレクトリ パスとデフォルトのパラメータが、フィールドに表示されます。トレース情報を別のファイルに送る場合は、Trace Directory Path フィールドにファイル名とパス名を入力します。デフォルト パラメータを変更するには、該当するフィールドをクリックして情報を入力します。

SDL Trace Configuration に適用されるデフォルトのトレース ログ ファイル名は、C:\Program Files\Cisco\Trace\SDL です。トレース ログ ファイルのデフォルト パラメータについては、[表 5-16](#) を参照してください。

## ■ SDL トレース パラメータの設定

**ステップ 6** SDL トレース パラメータの設定を保存するには、**Update** ボタンをクリックします。

SDL トレース設定に対するトレース設定の変更は、即時に有効になります。



**(注)** デフォルトを設定するには、**SetDefault** ボタンをクリックします。選択したサービスの現行設定値をクラスタ内のすべてのノードに適用するには、**Apply to all Nodes** チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** 別のサービスの SDL トレース設定を続けるには、**Configured Services** ボックスからサービスを選択します。それ以外の場合は、[ステップ 8](#) に進みます。

**ステップ 8** Cisco CallManager または Cisco CTIManager の SDI Trace Configuration ウィンドウに戻るには、**SDI Configuration** リンクをクリックします。

#### 関連項目

- [トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 \(P.5-71\)](#)
- [トレース フィルタ設定値 \(P.5-72\)](#)
- [トレース出力設定値 \(P.5-73\)](#)
- [トレース収集の設定 \(P.6-1\)](#)
- [トレース分析の設定 \(P.7-1\)](#)

## トレース ログ ファイルの表示

SDI トレースまたは SDL トレースのログ ファイルの内容は、テキストまたは XML 形式で表示できます。ログ ファイルを XML 形式で表示する場合は Trace Analysis を使用し (P.7-1 の「トレース分析の設定」を参照)、ログ ファイルをテキスト形式で表示する場合はテキスト エディタを使用します。

Microsoft Windows 2000 のマニュアルに、Microsoft テキスト エディタの詳しい説明があります。

ここでは、トレース ログ ファイルの内容をテキスト形式で表示する方法について説明します。

### 手順

**ステップ 1** Microsoft Windows のメニューから、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順に選択します。

[ファイル名を指定して実行] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [名前] フィールドのテキスト ボックスに、ログ ファイルのパス名を入力します (たとえば、c:\Program Files\Cisco\Trace)。

**ステップ 3** **OK** ボタンをクリックします。

Trace folder ウィンドウが表示されます。トレース ディレクトリには、CCM、CMI、CMS、CTI、DBL、RIS、TCD、および TFTP 用のフォルダがあります。Cisco CallManager サービスのトレース ログ ファイルは、これらのフォルダ内にあります。

**ステップ 4** 表示するトレース ログ ファイルが入ったフォルダをダブルクリックします。たとえば、CTIManager のログ ファイルを表示するには、CTI フォルダをダブルクリックします。

そのフォルダに入っているトレース ログ ファイルが、ウィンドウにすべて表示されます (たとえば、cti001.txt、cti002.txt、cti003.txt)。

## ■ トレース ログ ファイルの表示

**ヒント**

フォルダには数百のログ ファイルが存在する場合があります。最新のログ ファイルを探すには、最新のものを先頭に日付でソートしてください。

**ステップ 5** テキスト エディタを使用してログ ファイルを開き、内容を表示します。

---

**関連項目**

- [トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値 \(P.5-71\)](#)
- [トレース フィルタ設定値 \(P.5-72\)](#)
- [トレース出力設定値 \(P.5-73\)](#)
- [トレース収集の設定 \(P.6-1\)](#)
- [トレース分析の設定 \(P.7-1\)](#)

## トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値

表 5-16 に、トレース ログ ファイルの説明とデフォルト値を示します。

表 5-16 トレース ログ ファイルの説明

フィールド	説明
Maximum number of files	このフィールドには、特定のサービスに対するトレース ファイルの合計数を指定します。Cisco CallManager は、各ファイルを識別するために、ファイル名にシーケンス番号を自動的に追加します (例 : ccm299.txt)。シーケンスの最後のファイルが満杯になると、トレース データは最初のファイルに上書きされます。デフォルトは 250 ファイルです。
Maximum number of lines	このフィールドには、各トレース ファイルに保存されるデータの最大行数を指定します。デフォルトは、テキスト ファイルの場合は 10000 行、XML ファイルの場合は 2000 行です。
Maximum number of minutes	このフィールドには、各トレース ファイルに保存されるデータの最大分数を指定します。デフォルトは 1440 分です。

トレース データが 1 ファイルの最大行数または最大分数を超えると、Cisco CallManager はそのファイルを閉じて、待ち順が次のファイルに残りのトレース データを書き込みます。たとえば、各ファイルに 1 日分のデータを入れて一週間分のデータを保管するように、トレース ファイルをセットアップできます。このためには、ファイル数を 7 に設定し、分数を 1440 (1 日) に設定して、行数は 10000 などの大きな値 (使用率の高いシステムではさらに大きな値) に設定します。

## トレース フィルタ設定値

トレース フィルタ設定値を使用して、必要なトレースのタイプを設定します (表 5-17 を参照)。トレース フィルタ設定値にアクセスするには、Trace On チェックボックスをクリックします。

表 5-17 トレース設定のフィルタ設定値

フィルタ設定値	説明
Debug trace level	この設定値は、トレースする情報のレベルを指定します (表 5-11 を参照)。Error から Detailed までのレベルがあります。
Trace fields	各 Cisco CallManager サービスに、特有のトレースフィールドがあります。各サービスの設定手順で、トレースフィールドについて説明します。
Device Name Based Trace Monitoring	この設定値は、Cisco CallManager サービスと Cisco CTIManager サービスにだけ適用されます。このフィルタ設定値は、電話機やゲートウェイなどのデバイスに対するトレースを設定します。P.5-60 の「 <a href="#">Device Name Based Trace Monitoring トレース パラメータの設定</a> 」を参照してください。



## トレース出力設定値

トレース出力設定値を使用して、出力ログ ファイルとその形式を指定します (表 5-18 を参照)。



(注)

トレースの日時は、Trace Configuration によって自動的に提供されます。

表 5-18 トレース設定の出力設定値

フィルタ 設定値	説明
Enable file trace log	この設定値を指定すると、トレースの出力をログ ファイル (デフォルトのログ ファイル、または選択したファイル) に送ることができます。各 Cisco CallManager サービスに、デフォルトのログ ファイルがあります。
Enable XML formatted output	この設定値を指定すると、トレースの出力が XML 形式になります。Trace Analysis を使用するには、XML 形式にする必要があります。この設定値は、Cisco CallManager、CTIManager、および Cisco TFTP の各サービスでサポートされています。
Enable debug output string	シスコのエンジニアがこの設定値を使用します。

## ■ ディスクドライブを 4 つ搭載したサーバのトレース ファイル収集用の設定

## ディスクドライブを 4 つ搭載したサーバのトレース ファイル収集用の設定

システム パフォーマンスを向上させる目的で、トレース ファイルがデフォルトの C: ドライブではなく「Trace」という名前のドライブに書き込まれるようにサービス パラメータおよびトレース出力設定値を設定できます。Trace ドライブをトレース ファイル収集用に特別に設定することになるため、このドライブを使用することで、より多くのトレース ファイルを取得できます。

クラスタ内の、ディスクドライブを 4 つ搭載したすべてのサーバに対して、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** [マイ コンピュータ] をダブルクリックして、「Trace」という名前のついたドライブがあることを確認します。
- ステップ 2** Cisco CallManager Administration ウィンドウから、**Application > Cisco CallManager Serviceability** の順に選択します。  
  
Cisco CallManager Serviceability ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** **Trace > Configuration** を選択します。
- ステップ 4** Trace Configuration ウィンドウの左側にある Server ペインで、ディスクドライブを 4 つ搭載したサーバのサーバ名または IP アドレスをクリックします。
- ステップ 5** Configured Services ドロップダウン リスト ボックスで、**Cisco CallManager** サービスまたは **CTIManager** サービスをクリックします。



**(注)** この**ステップ 5** で選択しなかったサービスについても、この手順全体を繰り返してください。

選択したサービスとサーバの Trace Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ6** ウィンドウの右上隅で、**SDL Configuration** リンクをクリックします。

SDL Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ7** Trace Output Settings の下にある Trace Directory Path フィールドで、デフォルトを C: ドライブから Trace ドライブのドライブ名に変更します。

**ステップ8** **Update** をクリックします。

**ステップ9** クラスタ内の、ディスクドライブを4つ搭載したすべてのサーバに対し、Cisco CallManager サービスと CTIManager サービスの両方についてこの手順を繰り返します。

---

## ■ ディスク ドライブを 4 つ搭載したサーバのトレース ファイル収集用の設定